

日本食糧新聞

日本食糧新聞社
 東京都中央区八丁堀2-14-4
 ヤフービル(〒104-0032)
 news.nissyoku.co.jp
 編集・広告 ☎03(3537)1303
 購読 ☎03(3537)1311
 【支社局】北海道 ☎011(866)0721/
 東北 ☎022(225)2721/新潟 ☎025
 (240)8810/長野 ☎026(228)5520/
 中部・静岡 ☎052(571)7318/関西
 ☎06(7664)3801/中国 ☎082(223)
 2535/九州 ☎092(291)1790
 購読料 半年33,352円
 (本体30,882円+税8%+前金)
 ©日本食糧新聞社2022年



Bull-Doog
 ソースはやっぱりブルドッグ

INDEX

- UCC、カーボンニュートラル挑む
 - 1月販売、百貨店4カ月連続プラス
 - 1月のPOSデータ①
 - 商品ウォッチ
- 7 6 3 2

食品業界の最新動向がわかる
 無料メルマガ

<https://news.nissyoku.co.jp/>

●知って得する勉強会●
日食セミナー
 食品経営者フォーラム、食品ニューテクノロジー研究会などの日本食糧新聞のセミナー情報はこちらから
<http://info.nissyoku.co.jp/>

キミカは南米チリの海岸に漂着した海藻を有効利用し、食品の品質改良剤「アルギン酸」を製造している。長年にわたり本業の事業活動を通してSDGs達成に貢献し、世界最高品質の製造体制を確立。チリの漁民の生活水準

キミカ

を向上させるとともに、高い競争力を維持しながら業界トップメーカーにまで成長した。経済と環境、社会価値の共存を実践した取組みは国際的なロールモデルとしても高く評価されている。(涌井実)

漂着海藻を有効活用

SDGsのロールモデルに

アルギン酸はコブやワカメなど褐藻類に含まれる天然多糖類で、食物繊維の一種。天然素材である海藻から抽出したアルギン酸には、増粘、ゲル化、乳化、安定、食感改良など食品の品質を向上する優れた効果も認められている。

Sustainability

未来への胎動

同社はこのアルギン酸の国内市場で9割以上のシェアを持つ日本唯一の専門メーカー。高い品質が求められる食品・医薬品グレードにおいては世界トップシェアを誇る。安定供給を確保する生産体制、高品質を約束する品質保証体制を整え、少量のスポット生産からマスプロ(大量生産)まで幅広いニーズに対応する。

回収量に応じて価格が変動する市況商品だが、大量在庫することで海藻価格の変動リスクを抑え、価格高騰時に誘発される投機的な乱獲の抑止力になっている。

チリ北部の海岸では1万人あまりの漁民が海藻収集で生計を立てているが、同社は35年

にわたって市況に感づなかつた。アルギン酸を抽出した後の海藻残さ(カブ)はミネラルを豊富に含むため、肥料や土壌改良剤に加工する。現地近隣農家に無償で提供することで、農作物

の収量向上にも貢献している。また、電力や熱源、化学薬品の使用を最小限に抑えた独自製法を開発したり、工場の屋根に太陽光パネルを敷き詰めて再生可能エネルギーを生産したりするなど、生産活動に伴う環境負荷を軽減する取組みにも積極的に投資している。

こうしたサステナブルな取組みが評価され、2020年には日本政府主催の第4回「ジャパンSDGsアワード」における特別賞を受賞。チリ海藻工業委員会の一員として海洋資源調査活動への協力や、国連WFPの評議員としての取組みなど、国際的な活動も積極的に行っている。



沖に出て海藻を刈り取る方法に比べて手間はかかるが、海洋資源保全のため海岸に漂着した海藻を使う

拾い集めた海藻は、海岸に面した大きな砂漠を利用して天日乾燥させ、使い道がない海藻(褐藻類)。生態系を破壊する可能性のあるため生きた海藻を刈り取る手法はとら

なるのは、チリの海岸に漂着した硬くて食べられず、使い道がない海藻(褐藻類)。生態系を破壊する可能性のあるため生きた海藻を刈り取る手法はとら

る。海藻は回収量に応じて価格が変動する市況商品だが、大量在庫することで海藻価格の変動リスクを抑え、価格高騰時に誘発される投機的な乱獲の抑止力になっている。

チリ北部の海岸では1万人あまりの漁民が海藻収集で生計を立てているが、同社は35年

にわたって市況に感づなかつた。アルギン酸を抽出した後の海藻残さ(カブ)はミネラルを豊富に含むため、肥料や土壌改良剤に加工する。現地近隣農家に無償で提供することで、農作物

の収量向上にも貢献している。また、電力や熱源、化学薬品の使用を最小限に抑えた独自製法を開発したり、工場の屋根に太陽光パネルを敷き詰めて再生可能エネルギーを生産したりするなど、生産活動に伴う環境負荷を軽減する取組みにも積極的に投資している。

こうしたサステナブルな取組みが評価され、2020年には日本政府主催の第4回「ジャパンSDGsアワード」における特別賞を受賞。チリ海藻工業委員会の一員として海洋資源調査活動への協力や、国連WFPの評議員としての取組みなど、国際的な活動も積極的に行っている。